



# 蟹江小だより

ちがいは宝物 ～響かせよう！蟹江のハーモニー～

蟹江町立蟹江小学校

第36号

令和8年2月6日

発行者：佐古達哉

## ♪「音楽座ミュージカル」鑑賞会

1月23日（金）に音楽座ミュージカルが来校し、「リトルプリンス」を午前・午後の2部で公演していただきました。この公演は日本芸術文化振興会が行う「令和7年度 舞台芸術総合支援事業（学校巡回公演）」の一環として行われているもので、今回お越しをいただいた音楽座ミュージカルの皆さんも、前日に静岡県で公演をしてから本校に来てくださいました。

今回の公演では、舞台演出、衣装、道具、そして演者の演技や歌声といった一つずつに、「本物」がもつオーラや華やかさを感じることができ、時には子どもたちも立ち上がってウェーブをしたり、中にはステージに上げてもらえる児童や教員もいたりして、夢のような時間を過ごすことができました。観劇希望で来校された保護者の皆さんも本当に感動されていたようで、「もう一度見たいです」と話されている方もみえました。

今回来校してくださった音楽座ミュージカルには、何と本校の「卒業生」が在籍していて、今回の公演でも「一人ぼっちの王様」役などを演じて、笑いと感動を後輩のかにっこたちに届けてくださいました。カーテンコールの後には、その卒業生の方が感極まりつつ、地元に戻って上演できたことの喜びと感動を話してくださる場面もあり、後輩のかにっこたちに夢や希望をもつことの大切さを伝えてくれました。

著作権の関係で、講演の様子については写真撮影ができなかったため、素敵な舞台の様子をお伝えできないのが残念ですが、劇団の皆さんからいただいたサイン色紙と7月に開催される「マドモアゼル モーツァルト」公演のチラシを代わりに掲載します。今回の鑑賞会を通じて、たくさんの子たちが自分の未来に思いを巡らせ、さまざまな芸術に関心をもつきっかけにしてくれるといいなと思います。



## ♪ 現職教育の「まとめ」をしました

1月19日（月）の授業後には先生方が集まって、今年度の「現職教育研究」の取組について振り返りをしました。今年度の取組の良かった点や課題、さらに今後の研究の方向性についても意見交換をしました。先生方から出た意見の一部を紹介します。

### 【今年度の現職教育研究の取組について】

- ・ 現代的な教育課題や潮流だけに流されず、授業づくりの基礎・基本を追求することも大切。
- ・ 「一人一研究授業」の実践には意味があると思うが、互いの授業を参観をし合うのが（自分のクラスの授業があるために）現実的に難しいのが悩ましい。
- ・ 先生たち自身も「やりたい」気持ちから学べる勉強会などがあってよいのではないか。
- ・ ローテーションによる道徳授業は効果的で、今後も継続してより良いものにしたい。

上記のような先生方の反省を生かしながら、蟹江小の先生方がチームでより良い研究実践を推進することで、かにっこたちの学びがより充実するよう、来年度以降も学校全体で研鑽に努めていきます。

